

ICT機器活用授業研究のためのタブレットPCと電子黒板、支援システムの配置について

(1) ねらい

生駒北小学校及び生駒北中学校（生駒北小中学校）と緑ヶ丘中学校の通常学級において、タブレットPCと電子黒板、支援システムを組み合わせ、児童生徒が主体的・協働的に学習できる授業の在り方を研究し、今後の本格的な導入の検討につなげる。

(2) タブレット端末の教育的効果について

教師がタブレット端末を用いて授業を行うことにより、資料を電子黒板を用いて有効に活用することができている。また、児童生徒が体育の授業などお互いの様子を動画で撮影し、自分たちの様子を見ながらその場で話し合ったり、教室で大きく提示して報告したりするなど、アクティブラーニングへの有効な活用が報告されている。

(3) 配置状況

平成28年度

・タブレットPC	7台	×2校 =	14台
・電子黒板	1台	×2校 =	2台
・アクセスポイント	1台	×2校 =	2台
・授業支援システム	1セット	×2校 =	2セット

平成29年度

・タブレットPC	7台	×2校 =	14台
・アクセスポイント	1台	×2校 =	2台

(4) 予算 1,805,000円 タブレット端末(描画ソフト)

平成28年度

3,263,000円

・タブレットPC	$73,600 \times 7 \times 1.08 + 91,700 \times 7 \times 1.08 =$	1,249,668円
・電子黒板及びアクセスポイント	$422,000 \times 1 \times 1.08 + 422,000 \times 1 \times 1.08 =$	911,520円
・授業支援システム	$510,000 \times 1 \times 1.08 + 510,000 \times 1 \times 1.08 =$	1,101,600円

平成29年度

1,515,000円

・タブレットPC	$91,700 \times 7 \times 1.08 + 91,700 \times 7 \times 1.08 =$	1,386,504円
・アクセスポイント	$59,400 \times 1 \times 1.08 + 59,400 \times 1 \times 1.08 =$	128,304円

特別支援教育用タブレットの配置について

(1) ねらい

市内小中学校の特別支援学級在籍の児童生徒を対象に、個々の状況に応じてタブレットを活用し、学習指導や自立活動支援の充実を図る。

(2) タブレット端末の教育的効果について

全国的に学校教育の場に導入が進められているタブレット端末には様々な機能があり、子どもたちに必要なソフトウェアと組み合わせることで、たとえば、文字を正しく書く学習が自分ででき、正しくかけているか自ら確認できるなど、子どもが意欲的、主体的、効果的に学習を進められる。また、指の様々な動きで操作することで自立活動にも効果的である。児童生徒の状況を踏まえタブレット端末を選択し有効に活用する。

(3) タブレット配置状況

- ・平成 29 年度は、小学校 153 名、中学校 46 名、合計 199 名の児童生徒が特別支援学級に在籍。
- ・平成 27 年度、平成 28 年度にタブレットを各校 1 台配布。
- ・平成 29 年度 タブレットを各校 1 台配布予定。 (平成 29 年度中に各校合計 3 台配置)

(4) 予 算

平成 29 年度 SurfacePro2 91,700 円×10 台×1.08=990,360 円

i-Pad Air 73,800 円×10 台×1.08=797,040 円

(91,700 円+73,800 円)×10 台×1.08(税)=1,785,240 円 (平成 27 年度、28 年度も同様)

(5) タブレットを導入した成果と課題

- ・肢体不自由児の学習支援が行え、授業に取り組みやすくなった。
- ・画面で大きく表示された文字を指でなぞりながら学習ができる。
- ・興味を持って学習に取り組んでいる。 ・漢字の取得や計算能力が大幅に向上した。
- ・支援級児童生徒の人数に対して台数が少ない。 ・ソフトは入っているが、うまく使えない。
- ・インターネット接続環境が良くないところがある。
- ・視覚・聴覚を伸ばし、音声や指で操作できることを利用した学習・訓練への応用の検討。
- ・H29 年度は職員がアプリを知り、効果的に利用するための研修会の開催予定。